

## 総合長期計画策定に関わった公募委員の方との座談会を2号にわたり振り返ります

つまらない？ 難しい？

### 総合長期計画とは…？

「10年後の青梅市はどんなまちか」を示し、「目指すまち」に向けて何を行っていくのかを書き記した設計図のようなものです。

### 公募委員とは…？

総合長期計画を作るために、学識経験者や民間団体の代表者とは別に、一般市民から委員を募集し選出された方で、計画の内容等を令和3年7月～4年11月に検討しました。



## 総合長期計画の公募委員になぜ立候補しましたか？



伊藤武夫さん

**自分の経験を元に、青梅の暮らしやすさや良さを次の計画に生かせたら**

### なぜ応募しましたか？

私は40年近く、民間企業で情報通信機会社で開発とか、モノづくりをしてきた経験があり、海外勤務で東南アジアやヨーロッパなどに住んできました。その経験と、リタイア後は青梅市の自治会活動で支会長をしたり、地域のコミュニティ活動に参加してきました。

この経験を生かして長期計画について考えてみたいと思いました。そんな時に、公募委員の募集記事を見て手を挙げたところ、当たりました(笑)

### 青梅への想いは？

海外などから帰国すると、多摩川を見て「やっぱりふるさとはいいな、本当に青梅は住みやすいな」と思います。

その中で、高齢者が生き生きと安心して暮らせるまちにするとか、恵まれた自然や伝統文化を活かして移住定住者を増やしていくとか、先端技術を持つ企業やベンチャー企業などの支援ができるまちという視点を議論できればいいなと思っていました。

**自分の活動の中で生まれた「知りたい」に対して自分のお尻をたたいてみるか**

### なぜ応募しましたか？

それこそ6次計画があったことを、全く知りませんでした。「青梅市民なのに何で知らないんだろう」というモヤモヤした気持ちがありつつ、そもそも条例や憲章などに全く興味がありませんでした。

しかし、子育てのNPOの事務局を始めた年が前年で「何か市民参加したいな」と少しずつ興味が出ていたところで、委員募集の記事を見ました。NPOの団体内や子育ての会議でも、「誰が行けない？」という話になりました。「事務局にもなったし、いろいろ知るきっかけになるかも。ちょっと自分で自分のお尻を叩いてみるか！」と思い、応募しました。

### 実際に委員になってみてどうでしたか？

「まあ、通ればいいかなあ」という感じで応募したら「まさか通っちゃった！」でした。そのメールが来た時、「ど、ど、どうしよう！」という感じでした(笑)それから周りのみんなが進んで関わってくれました。まずは、「6次計画を読みあう会」から始まり、青梅を学ぶ意見交換会を行ってくれた友人もいました。

さらに市民や市議会議員さんからアンケートを取るなど、自分だけでは考え付かなかった意見に触れることができました。本当に周りの人に支えられ、押し上げられつつなんとかやってきました。



沼倉智弓さん

**青梅の郊外で自営業をやりながら、子育てをしている目線で話を**

### なぜ応募しましたか？



儘田菜つ美さん

お世話になった方から、声をかけてもらいました。でも、全く長期計画の存在を知りませんでした。昔から人前で意見を言うのが本当に苦手で、今日の座談会でもドキドキしてしまいます。「私でいいんですか？」という状態でした。

青梅の郊外で子育てをしながら、観光に関わる自営業をしているという視点、それでよければ委員を受けてみようと思いました。

青梅の郊外で子育てをしながら、観光に関わる自営業をしているという視点、それでよければ委員を受けてみようと思いました。

### 実際に委員になってみてどうでしたか？

関わってみて、皆さん本当に熱い思いの方が多くないなと思いました。「1回目からすごかったな」と思います。私も刺激になることや、意見もありましたし、勉強、勉強という感じでした。

6次計画の冊子をもらった時に、全体的に教科書のような印象を受けました。「分かりにくいな。」と思いました。書いてある内容は良いことですが、一般論が多いと感じました。

今回の計画はかなり見やすくなり、問題提起もきちんとできています。どんどん改善されていく、まさにその現場を見ることができて、本当に勉強になりました。

**青梅の森を活かす、もっと別の方法があるのではないか**

### なぜ応募しましたか？



松井 勉さん

還暦を過ぎて多少時間ができました。その時に、今までの自分の仕事以外の人と知り合いたい、仕事以外のことに携わりたいという気持ちで、ボランティアを始めました。まず始めたのが、子どもを自然に触れさせて遊ばせるボランティアでした。

しかし、「あまり広がりがいいな」という気持ちがあり、青梅の森の整備保全のボランティアも始めました。その活動の中で「青梅の森って結構いい資源だと思うけど、活かされていないな。もっと別の方法があるのでは？」と思いました。

その時、委員募集のタイミングが合って、実は最初に記事を見つけたのは妻なんです。妻も外で遊ぶことが好きなタイプなので、「お父さん、これに参加してみたら…」という後押しもありました。それで、「ダメかな」と思いながら応募しましたが、受かりました(笑)

### 青梅への想いは？

自分のためというよりも、やはり子どもや孫、これからの若い人たちが、ここで楽しく暮らしていけるような市になってほしいという気持ちが強いです。